

アウクスブルクから本場の人形劇がやってきた！つかしんで公演

平成21年10月31日から11月8日までの9日間、「ゲンゼ タウンセンター つかしん」において、姉妹都市提携 50 周年記念事業の目玉であるアウクスブルク人形劇団「プッペンキステ」の公演が開催されました。



プッペンキステの人形

アウクスブルク人形劇団“プッペンキステ”

プッペンキステ(Augsburger Puppenkiste)とは、「アウクスブルクの人形箱」という意味の木製マリオネット劇団の名称です。戦後間もない1948年に「長靴をはいた猫」の初演で幕を開けて以来、グリム兄弟など各国童話作家の作品に加えて、劇団オリジナル作品の上演も続けているドイツで最も有名な人形劇団です。

他都市の人形劇と大きく異なるのは、60年という長い歴史に加え、この劇場で上演された作品が次々とテレビ放映や映画化されていること、また人気キャラクターのグッズも販売されるなど、ドイツ国内において、とりわけ知名度が高い点にあります。

これまでに平成18年4月29日から5月7日にかけて、「ゲンゼタウンセンターつかしん」のリニューアルオープンを記念して、同所で公演を行いました。



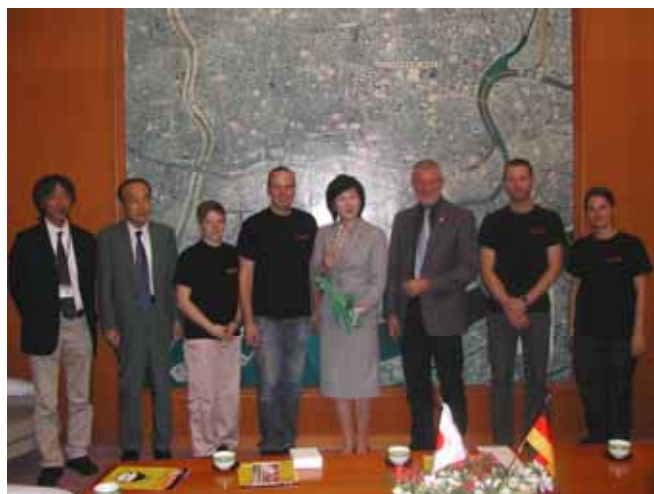
プッペンキステのカシュパルくん

10月28日 尼崎市表敬訪問

公演に先立ち、劇団員は、尼崎市を表敬訪問しました。市長からは、劇団員と主催者の株式会社つかしんタウンクリエイトの皆さんに対して、多くの尼崎市民にプッペンキステに親しむ機会を与えてくださったこと、そして姉妹都市提携50周年という記念の年をさらに盛り上げてくださったことへのお礼の言葉が述べられました。また、記念品としてネクタイとコンパクトミラーが団員に手渡されました。一方、マーシャル劇団代表からは、市長に大きな白い箱がプレゼントされました。中から出てきたのは、ドイツの子どもたちに大人気のキャラクター「ウルメル」くんです。劇団員が操った「ウルメル」くんのコミカルな動きに市長も引き込まれていました。



ドイツの子どもたちに大人気の操り人形「ウルメル」くんを操る劇団員



白井市長と劇団員、つかしんの皆さん

10月31日

公演初日・テープカットセレモニー

公演初日には、「プッペンキステ人形劇！つかしん公演」の成功を祈念して、「グンゼ タウンセンター つかしん」にしまちチャーチ広場において、テープカットセレモニーが盛大に開催されました。



(左より)マーシャル劇団代表、白井市長、株式会社つかしんタウンクリエイティブ赤木代表取締役社長、ドイツ連邦共和国総領事館ピーダーマン副総領事、来場者代表の女の子

プッペンキステ公演プログラム(1日3公演)

- 第1回 11:00～12:00 劇「ウルメルの大旅行」
- 第2回 14:00～15:00 音楽劇「カバレット」
- 第3回 16:00～17:00 劇「ウルメルの大旅行」

本公演

セレモニーに引き続き、会場の特設テントでは、ドイツの子どもたちに大人気の演目「ウルメルの大旅行」が上演されました。公演終了後、子どもたちへのお楽しみとして「人形との触れ合いタイム」が設けられました。子どもたちは、興味深げに人形と触れ合っていました。



操り人形との触れ合いタイム

公演期間中、姉妹都市提携50周年を共に祝いたいとの「つかしん」側からのご好意で、園田北小学校と塚口小学校の生徒が公演に招待されました。

また、プッペンキステ公演にあわせて、「2009 つかしんドイツフェア」も開催されました。



ロマンチック広場で開催されたドイツ・ユネスコ世界遺産“写真”展



せせらぎ通りではドイツのお酒や食材も楽しむことができました！

11月8日の最終日まで、9日間の公演(1日3公演)を通じて約2,700名が観賞し、本場の人形劇の迫力と感動を味わいました。

アウクスブルク人形劇団

“プッペンキステ”劇団員名簿

【劇団代表】

クラウス・マーシャル (Klaus Marschall)

【劇団員】

カーステン・ガードナー (Carsten Gardner)

アンドレア・グラーフ (Andrea Graf)

ハンス・カウツマン (Hans Kautzmann)

マライケ・ヴィットナー (Mareike Wittner)

【通訳】

原 修子